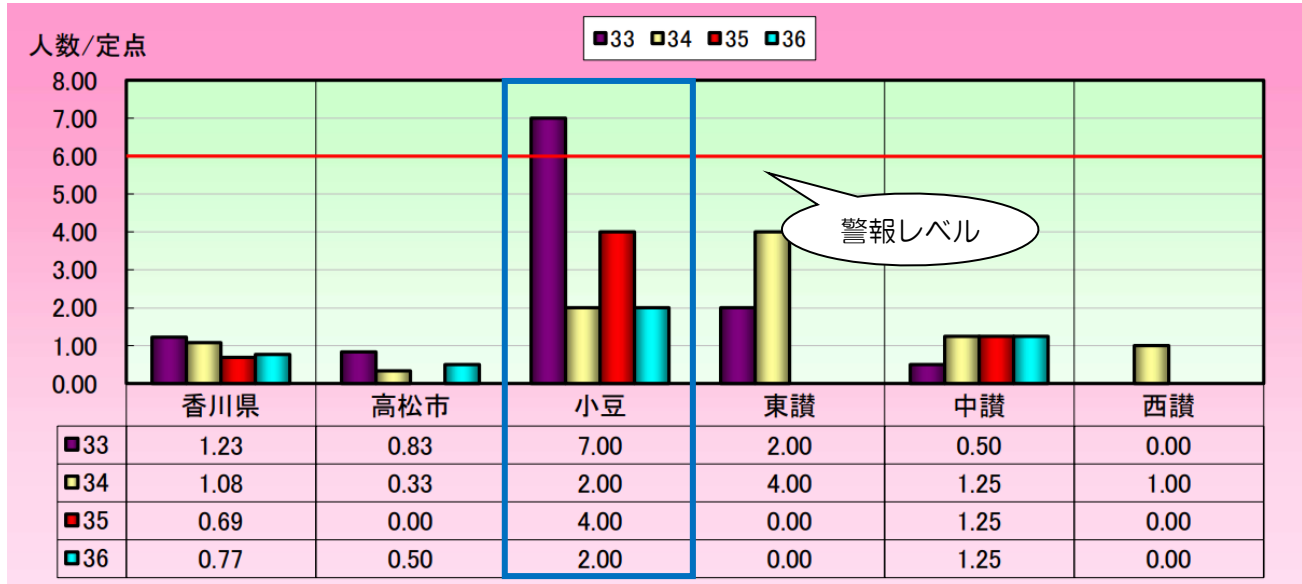
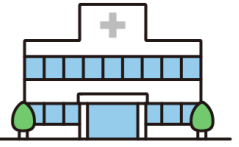


ヘルパンギーナに気をつけましょう！

ヘルパンギーナは、夏季に流行する感染症です。現在、県内で流行していますので、しっかりと手洗い・うがいをするなど感染防止に努めましょう。

○保健所別定点当たり患者数（最近4週の発生状況）

〔令和8年 第33週（8月10日～8月16日） ～ 第36週（8月31日～9月6日）〕



◇ヘルパンギーナとは？

発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とし、ウイルスが原因となって引き起こされます。乳幼児を中心に夏季に流行し、「夏風邪」の代表的な感染症です。

◇潜伏期間と症状は？

2～4日間の潜伏期間を経て、口内炎による喉の痛みを伴う発熱で発症し、口腔内に水疱が出るのが特徴です。

熱は通常2～4日で下がりますが、のどの痛みはしばらく残ります。

治療は、それぞれの症状に対する対症療法が中心です。まれに、髄膜炎や急性心筋炎などの合併症を引き起こすおそれがあるので、頭痛・吐き気などの症状があったら、早めに医療機関に相談してください。

◇感染経路は？

せきやくしゃみなどによる飛沫感染や、感染者の唾液や鼻水などの中にいるウイルスが、手などによって、口や鼻に運ばれることで感染します。

感染予防のポイント



- ①石けんと流水でしっかりと手洗いをして、タオルの共用は避けましょう。
- ②症状がなくなっても、4週間程度、便の中にウイルスが排出されますので注意しましょう。